

慈雲

〇号

2005/9

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺
慈雲会
〒604-8214
京都市中京区新町通蛸薬師下る
百足屋町375番地
TEL/FAX (075)221-4616
SinsyuuOotaniha
JiunzanZuirenji
Jiunkai



【解説】

人の一生でよき師に出会うほど大切な事はないでしょう。しかもそれは計らいを超えて偶然に賜る（たまわ）るものです。ひとたびそのような師や友と出会えば、それはその時だけの幸せに終わらずその人の生涯を貫くほどの影響を与えます。そのことを父は「一生の幸（さいわい）である」と念をおしてくれるのです。

住職

・この文章は前任職が療養所にて書いたものです。とても大きな言葉なので表紙としました。

【読み方】

一期一会とは予期せぬ時に良き師に出会う事であり、人の一生に一回も廻（めぐ）ればその人は一生の幸（さいわい）である。

浅井春洋

一期一会とは予期せぬ時に良き師に出会う事であり、人の一生に一回も廻ればその人は一生の幸である。

浅井春洋

【「慈雲」発刊によせて】

この度、ようやく皆様にも「慈雲」をお届けすることが出来ました。「慈雲」は慈雲会発足（平成十七年一月）を機会にスタートしましたいわば慈雲会の公式会報です。

役員の中で、会報担当二名と、毎月一回の定例勉強会「求道会」のメンバー四、五名が企画・編集・発行までを手がけます。

表紙についてですが、「慈雲」の題字は、現在療養中の前任職の字です。

慈雲とは瑞蓮寺の山号、慈雲山からとりました。どのお寺も寺名の上に山号をつけることになっていきます。

山号はもともと中国にて寺の所在を示すためにつけられたものですが、それが日本に入ってきて例えば「京都五山」などのように寺の代名詞としても使われてきました。

もちろん慈雲山という山は実在しないわけですが、瑞蓮寺創建当時からつけられたこの山号は、「仏の恵みのあまねく多い」ことをたとえた言葉であり、とてもスケールが大きくまた温かい響きをもちます。

この会報「慈雲」は会員皆様が主役です。みなさまからのお便り、寄稿、ご意見、またカットやイラストなど何でも結構ですのでどしどしお寺までお送りください。お待ちしております。

今後、末永く続けていきたいと思っております。

どうぞよろしく願います。

【お磨きのお知らせ】

九月二十日（火）午前九時より

本堂の仏具のお磨きをいたします。

真宗の仏具は真鍮（銅と亜鉛との合金）でできています。独特の黄金色で、お浄土の荘厳のきらびやかな様子をあらわしています。

しかし、空気に触れると少しずつ色が濁ってきてその輝きが失われていきます。

そこで、専用の研磨剤を使って定期的に磨くことが必要になるのです。

お寺では年5回（正月、春秋彼岸、盆、報恩講）のそれぞれの行事の前にお磨きをしています。磨くと再び新品と同様の輝きが甦ります。

これは仏具を磨くことを通して、日常生活の中で知らず知らずのうちに煩惱に汚れている自分の心を、仏法を聞いて幾度も幾度も輝きをとりますことをもあらわしているのです。

みなさまのおうちのお内仏（お仏壇）と同様にお寺のお磨きを試してみませんか。

少々汚れてもよい服装でお越しください。手袋等はお寺で用意いたします。所要時間は1時間半程です。



【平成一七年度 慈雲会役員】

- | | | | | |
|-----|--------|----|--------|--------|
| 会長 | 中尾 金次郎 | 役員 | 横山 征市 | 酒井 英一 |
| 副会長 | 小西 慶典 | 役員 | 奥井 好昭 | 加藤 弘子 |
| | | 役員 | 小島 富佐江 | 谷田 吉貞 |
| | | 役員 | 藤井 聲舟 | 和多田 一美 |
| | | 役員 | 長塩 浩史 | |

【編集後記】

暑かった夏も終り、少しずつ秋の気配が感じられるようになってきました。

昨年七月に現住職が住職に任命されてからはや一年経ちました。

住職となるには、東本願寺で二泊三日の住職修習を受けなければなりません。この二泊三日の間にお葬式があっても、例え身内であっても抜ける事はできません。もし途中で抜けた場合はもう一度修習を受け直す事になります。それ程大切な研修です。

はからずも本場に現住職は親のお葬式に出られなくなってしまうのですが……

私共、真宗大谷派においては、この住職修習は、住職となる者と、その寺院の総代さんの二人で受ける事になっています。他の宗派では住職候補の方だけが受けているようですが、大谷派は必ずご門徒の代表一人と共に受ける事になっています。

私はその事が大谷派においての「お寺の在り方」をあらわしているような気がします。寺とは寺族（寺に住まいする者）のものでなくご門徒と共にあるものだと思います。

みなさんと共にこの「慈雲山瑞蓮寺」をお守りしてゆきたいと思えます。

坊守